

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
地理B	地理B	1	A B C D E F	2	必履修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	吉田 宣浩
授業形態	講義
教科書	新詳地理B, 帝国書院 ・ 新コンパクト地図帳 改訂版, 二宮書店
使用教材等	新編地理資料(とうほう)2021

科目の目標・内容等

学習目標	現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる人としての自覚と資質を養う。
学習における留意点	主体的に学ぶ姿勢を持ち、授業に積極的に参加するようにする。
予習・復習	予習は特に必要としないが、授業で学習した事柄に対して自分なりにより深く考え理解を深めるよう復習を心がける。
評価方法	主として定期考査だが、長期休業時の宿題や課題テスト、平常点(プリント類提出や授業態度など)を考慮する。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	様々な地図と地理的技能	リモートセンシングなど最新技術を活用した地理情報の活用を学ぶ。地球儀や地図からとらえる世界、結びつく現代世界地図で読む解く。大縮尺の地図について学ぶ。自然環境と防災、地理的な諸課題と地域調査を学習する。	地理情報活用の重要性を理解したか、地形図の読図、主題図の作成ができるか。日本の自然災害の特徴を理香で着ているか。ハザードマップを活用できるか。
2	現代世界の系統地理的考察	世界的視野から見た自然環境と文化諸地域の生活・文化と環境などについて詳しく学習する。	系統地理分野は、大学入試においても重要な分野になる。学習事項をきちんと自分のものになっているかどうか。
3	現代世界の地誌的考察	現代世界を、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニアなどの各地域ごとに考察する。	東アジア・東南アジア・南アジア・アフリカ中南部・ヨーロッパ及びロシア・北アメリカ及び中南アメリカ・オセアニアなど各地域の生活・文化と環境について把握できているか。世界地図を活用できるか。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

地理歴史 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
世界史B	世界史B	2	A B C D E F	3	必履修	105 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	橋爪 公人
授業形態	講義、演習
教科書	世界史B，東京書籍
使用教材等	グローバルワイド 最新世界史図表，第一学習社 東書の世界史B 入試対策問題集，東京書籍

科目の目標・内容等

学習目標	16世紀から19世紀までの主にヨーロッパを中心とした歴史について、歴史的な見方・考え方を働かせ、大きな枠組みと展開を多面的・多角的に理解し、考察できる力を身に付ける。
学習における留意点	授業を大切に、勉強に必要な準備を怠らないこと。自分の言葉で表現したり、社会事象の意味や意義、特色などを主体的に追究したり、学習に意欲的に取り組むとよい。
予習・復習	教科書や問題集を使って、繰り返し学習するとよい。
評価方法	定期考査・提出物・平常点(授業態度等) 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	大交易時代 ルネサンス 主権国家形成と宗教改革 オランダの繁栄と英仏の 追い上げ 18世紀のヨーロッパと啓 蒙専制国家 近世ヨーロッパの社会と 文化	大交易時代などをきっかけとしてヨーロ ッパ本位の世界の一体化が進んだことを 理解する。 戦争の長期化・大規模化と宗教改革に よって主権国家が形成されたことを理解 する。 西欧諸国の政治変化と経済力の移り変 わり、東欧諸国の西欧近代化改革につ いて理解する。 17～18世紀のヨーロッパの社会と文化 について理解する。	15～18世紀のヨーロッパの変 容と、ヨーロッパの世界進出に 伴う世界の変容について、十 分に理解している。 主体的に学習に取り組めた。
2	激化する経済覇権抗争 産業革命と社会問題の発 生 合衆国とラテンアメリカ諸 国の独立 フランス革命とウィーン体 制 自由主義の台頭 イギリスの覇権とヨーロ ッパ諸国 南北アメリカの発展 西アジアの改革運動	ヨーロッパの海外進出が各国の対立と産 業革命につながったこと、資本主義の発 展で社会主義が生まれたことを理解す る。 アメリカ大陸諸国の独立の背景・過程・影 響について理解する。 フランス革命の背景・過程・影響や意義 と、ウィーン体制と反発する動きを理解 する。 ヨーロッパ諸国の国内の動きと海外進出 の動きを関連付けて理解する。 アメリカの発展と分裂の危機、メキシコの 改革について理解する。 オスマン帝国の弱体化と改革の動きにつ いて理解する。	資本主義や社会主義、自由主 義やナショナリズムの台頭につ いて、背景や推移、影響や意 義について十分に理解してい る。 18～19世紀の国際関係につ いて十分に理解している。 主体的に学習に取り組めた。
3	南アジア・東南アジアの植 民地化と民族運動の黎明 清の動揺と変貌する東ア ジア	19世紀ヨーロッパによるインド・東南アジ アの植民地化の過程について理解する。 アヘン戦争から洋務運動に至る中国の 植民地化と改革の挫折について理解す る。 日清戦争と日露戦争の背景・過程・影響 について、日本と世界情勢の変化を結び 付けて理解する。	19世紀の世界各地の歴史をそ れぞれ関連付けて十分に理解 している。 主体的に学習に取り組めた。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

地理歴史 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
α 日本史B	日本史B	2	A B C D E F	3	必修選択	105 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	加瀬 達人、遠山 久也
授業形態	講義・演習
教科書	詳説日本史 改訂版，山川出版社
使用教材等	・新詳日本史，浜島書店（付 史料の基礎210選） ・日本史重要語句CheckList 啓隆社 ・新日本史要点ノート応用編，啓隆社 ・江戸から東京へ，東京都教育委員会

科目の目標・内容等

学習目標	原始から現代に至る歴史の流れをつかみ、東アジアをはじめとする世界との繋がりの中で形成されてきた日本社会や日本文化の特色について学び、歴史的思考力を養う。
学習における留意点	難関大学の入試にも対応できる授業内容とし、論述力養成の指導も行う。
予習・復習	予習：教科書を読んで授業に臨む。 復習：要点ノート・授業プリントで重要事項を身に付ける。
評価方法	年間5回の定期考査の得点を基本に、課題テスト・小テスト・平常点を加味し評価する。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	原始・古代 【日本文化のあけぼの】 【律令国家の形成】	・人類の誕生から小国の分立、ヤマト政権の成立までの過程を理解させる。 ・東アジア世界との関係の変化に着目して、古代国家の推移について考察させる。	・原始社会について理解できている。 ・東アジア諸国のとのかかわりについて理解できている。 ・古代国家の推移、古代の文化の特色とその成立の背景について理解できている。
2	古代 【貴族政治と国風文化】 中世 【中世社会の成立】	・東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭などに着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立背景及び中世社会の萌芽について考察させる。 ・武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立背景について考察させる。	・古代国家の推移、中世社会の萌芽、古代の文化の特色とその成立の背景について理解できている。 ・中世国家の形成過程や社会の仕組み、中世社会の多様な展開、中世の文化の特色とその成立の背景について理解できている。
3	中世 【武家社会の成長】 近世 【幕藩体制の確立】	・日本の諸地域の動向、東アジア世界との関係、産業経済の発達、庶民文化の萌芽に着目して中世社会の多様な展開について考察させる。 ・戦国時代から近世への移行、幕藩体制の確立・展開・動揺について、複数の視点から考察させる。	・日本の諸地域の動向、東アジア世界との関係、産業経済の発達、庶民文化等、中世社会の多様性を理解できている。 ・幕藩体制の特性について理解できている。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

地理歴史 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
江戸から東京へ	江戸から東京へ	2	A B C D E F	1	必修選択	35 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	長 雅洋
授業形態	講義・作業
教科書	「江戸から東京へ」東京都教育委員会
使用教材等	オリジナルの配布資料

科目の目標・内容等

学習目標	東京の近世から近代への展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培う。
学習における留意点	近世から近代への東京都の変遷について学び、社会人として必要な歴史的教養を修得する。
予習・復習	毎時の課題等によって学習内容の定着を図る
評価方法	授業時テスト、授業態度・発問応答により評価する

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	東京都の姿 (東京23区・多摩地区の市町村・島嶼部の姿) 幕藩体制の成立 幕政の改革の時代 開国と江戸幕府の滅亡 明治維新と自由民権運動	・東京都の区市町村の位置、人口や産業の確認を行う。 ・江戸時代の日本の対外関係と幕藩体制の仕組みを理解する ・開国に至る経緯と幕府の対応、幕府が崩壊した一連の流れを理解する。 ・明治新政府の成立当初のねらい、初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。	・東京都の区市町村の姿を把握している。 ・江戸後期の日本の状況を、世界情勢と関連づけて、正しく把握している。 ・尊王攘夷運動から討幕へ移る流れをきちんと把握している。 ・士族反乱、自由民権運動、政党の結成、憲法制定の経緯や背景、またそれぞれがつながりをもって理解している。
2	大日本国憲法と初期議会 日清戦争・日露戦争 政党政治の展開 太平洋戦争	・初期議会から条約改正、日清・日露戦争に至る経緯と、その戦争がもたらした影響を理解する。 ・明治後半から大正期の政党政治の一連の流れを理解する。 ・軍部の台頭の過程と、これに伴う政治的な状況の変化を理解する。 ・太平洋戦争に至る過程を理解する。	・条約改正の目的とその経緯・結果について、時系列に把握している。 ・日清・日露戦争のそれぞれの原因と結果を、正確に把握している。 ・日本がおこなったアジア諸国への勢力拡張の実態を把握し、また、この問題点についても理解している。 ・日本の対外政策の内容を、対アジア諸国、対欧米諸国という視点から理解している。
3	講和と安保条約 高度経済成長とそのひずみ	・戦後の日本の復興とその後の国際関係について理解する。 ・日本の復興にともなう高度経済成長とその後の日本がかかえる問題について理解する。	・戦後の復興政策と日米関係について理解している。 ・高度経済成長に至るまでの経緯を理解し、その後の問題点から真の豊かさについて探究することができる。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

公民 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
政治・経済	政治・経済	3	A B C D E F	2	必履修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	手塚 登
授業形態	講義・グループワーク・演習・鑑賞
教科書	高等学校 改訂版 政治・経済，第一学習社
使用教材等	政治経済資料2021，とうほう ニューコンパスノート政治経済2021，とうほう

科目の目標・内容等

学習目標	政治や経済に関わる制度や原理的仕組みについて理解し、現実の政治・経済事象に関心を寄せ、客観的理解及び主権者として主体的判断ができるようにする。
学習における留意点	知識・理解を重視するとともに、主権者としての主体的な判断力が磨けるように現実の政治・経済。社会問題に関心を向けさせる。
予習・復習	予習は、とうほう「ニューコンパスノート」を自力で埋め、教科書に目を通す。復習は、授業時に取ったトートを中心に教科書・「コンパスノート」・資料集を読み返し、「コンパスノート」の「用語チェック」により自分の理解・記憶を確認する。
評価方法	定期考査・平常点（小テスト・レポート・授業の取り組み等）・提出課題等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	・民主政治の基本原則と日本国憲法 ・現代の国際政治と日本	・民主政治の基本原則について歴史を踏まえて学ぶとともに、日本国憲法の三大基本原則や、統治機構と地方自治、選挙制度などについて深く考えさせる。 ・第二次大戦後の国際関係、国連の仕組みや課題、民族問題や領土問題について深く考えさせる。	政治についての基本原則や基本原則の解明に関心をもち、現実の政治現象をも深く理解しようとする意欲を持って取り組み、定期考査等でその成果を示せたか。課題や授業に主体的に取り組んだか。
2	・現代経済の仕組みと特質 ・国民経済と国際経済	・三経済主体と経済活動について考察させ、市場経済の機能、金融・財政政策、中小企業と農業、消費者、労働問題、社会保障、環境問題等について深く考えさせる。 ・貿易と国際収支、国際経済機関の役割、地域経済統合、何ぼく問題などについて深く考えさせる。	経済についての基本原則や基本原則の解明に関心をもち、現実の経済現象をも深く理解しようとする意欲を持って取り組み、定期考査等でその成果を示せたか。課題や授業に主体的に取り組んだか。
3	現代社会の諸問題	・社会保障の課題、格差問題、農業・食料問題、資源・エネルギー・環境問題等について、テーマを設定して考えさせる。	現代社会の諸問題に関心をもち、深く理解しようとする意欲を持って取り組み、定期考査等でその成果を示したか。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

公民 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
倫理	倫理	3	A C E	2	必履修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	手塚 登
授業形態	講義・グループワーク・演習・鑑賞
教科書	高等学校 改訂版 倫理，第一学習社
使用教材等	テオリア最新倫理資料集 新版，第一学習社 改訂版倫理ノート、第一学習社

科目の目標・内容等

学習目標	自己形成に伴う諸課題について理解を深め、人間としてのより良い生き方について先人の思索を手掛かりに考察する
学習における留意点	地歴等で学んだ知識や同時に学習する政経の知識が理解を助ける材料となるので常に参照すること。
予習・復習	予習は授業前に教科書を読んでおく。復習は、授業時に取ったノートを中心に教科書・資料集を読み返して理解を深め、「倫理ノート」を使って記憶の定着を図る。
評価方法	定期考査・平常点（小テスト・レポート・授業の取組等）・提出課題

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	○青年期の課題と自己形成 ○人間としての自覚 ・ギリシャの思想 ・キリスト教 ・イスラム教 ・仏教・儒教 ○国際社会に生きる日本人としての自覚 ・日本仏教 ・日本儒教の展開 ・町人意識と庶民思想	・人生における青年期の位置づけを理解し、この時期の最大の課題であるアイデンティティの確立について理解する。 ・源流思想にさかのぼり、人間としての在り方、生き方を考える手がかりを得る。 ・日本の風土と伝統の中に入ってきた仏教や、儒教がどのように受容され発展したかを理解する。	青年期の課題と源流となる思想や宗教の解明に関心を持ち、自分自身の生き方につながる問題として深く理解しようとする意欲をもって取り組み、定期考査等でその成果を示したか。課題や授業に主体的に取り組んだか。
2	○現代に生きる人間の倫理 ・人間の尊厳・近代の科学革命と自然観 ・自由で平等な社会の実現 ・人間性の回復と主体性の確立 ○国際社会に生きる日本人としての自覚 ・西洋思想との出会い	・近代以降の西洋思想がどのように発展したかをたどり、人間の生き方と社会にどのような影響をもたらしたかを理解する。 ・幕末からの西洋思想との出会いと、その後の独自の発展を何人かの思想家を通じて理解する。	近代の思想と現代思想の解明に関心を持ち、自分自身の生き方につながる問題として深く理解しようとする意欲をもって取り組み、定期考査等でその成果を示したか。課題や授業に主体的に取り組んだか。
3	○現代の諸課題と倫理 ・生命の問題と倫理課題	医学の発展によって登場してきた生命の倫理に関する問題を自分自身に関わる問題として理解する。	・生命倫理の課題に関心をいだき、自分自身の生き方につながる問題として取り組んだか。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度 地理歴史 科
教科名等

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
X世界史B	世界史B	3	A B E F	4	必修選択	140 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	長 雅洋
授業形態	講義、演習
教科書	世界史B，東京書籍
使用教材等	グローバルワイド 最新世界史図表，第一学習社 東書の世界史B 入試対策問題集，東京書籍 大学受験必携 世界史用語集，東京書籍 世界史重要語句Check List，啓隆社

科目の目標・内容等

学習目標	大学受験に向けた世界史Bの知識・理解や歴史的な見方・考え方を身に付け、演習を通じて問題を解く力を身に付ける。
学習における留意点	授業と個人学習を大切にする。常に問題意識をもち、疑問を解消しようとする学習姿勢を維持する。
予習・復習	教科書や資料集、用語集を使って基本の流れや理解を得たのち、問題集等を使って繰り返し学習して、知識の定着を図るよい。疑問点を図書室の本等を使って調べるとより理解が深まる。
評価方法	定期考査・提出物・平常点(授業態度等) 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	世界恐慌の現代史 オリエント世界とローマ アジアの古代文明(上記 範囲と同時学習) 問題演習	二つの大戦の背景・特徴・影響を、現代との繋がりを踏まえて理解する。 冷戦の背景・特徴・影響を、様々な国と地域の視点を踏まえて理解する。 ローマ帝国による地中海文明権の成立とキリスト教の誕生と発展 東アジアの中華文明と内陸アジアの遊牧国家の成立と発展	基本的な歴史用語と出来事とを理解しており、現代史を大きく捉えることができる。 それぞれの文明圏の成立過程と特徴を理解する。
2	1学期の続き イスラム世界の形成と発展 西欧世界の成立 大学入試問題演習	1学期の続き イスラム世界の成立のその拡大 西ヨーロッパにおける封建社会の成立とその解体 問題演習を通じた総合的学力の養成	1学期の続き それぞれの文明圏の成立過程と特徴を理解する。 問題を理解し、解くことができる。知識を自ら補うことができる。
3	大学入試問題演習	問題演習を通じた総合的学力の養成	問題を理解し、解くことができる。知識を自ら補うことができる。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

地理歴史 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
X日本史B	日本史B	3	A B C D E F	4	必修選択	140 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	遠山 久也、加瀬 達人
授業形態	講義・演習
教科書	詳説日本史 改訂版，山川出版社
使用教材等	・新詳日本史，浜島書店 ・詳録新日本史史料集成，第一学習社 ・新日本史要点ノート応用編，啓隆社 ・日本史重要語句CheckList 啓隆社

科目の目標・内容等

学習目標	原始から現代に至る歴史の流れをつかみ、東アジアをはじめとする世界との繋がりの中で形成されてきた日本社会や日本文化の特色について学び、歴史的思考力を養う。
学習における留意点	難関大学の入試にも対応できる授業内容とし、論述力養成の指導も行う。
予習・復習	予習：教科書を読んで授業に臨む。 復習：要点ノート・授業プリントで重要事項を身に付ける。
評価方法	年間5回の定期考査の得点を基本に、課題テスト・小テスト・平常点を加味し評価する。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	原始・古代 【日本文化のあけぼの】 【律令国家の形成】 【貴族政治と国風文化】	・人類の誕生から小国の分立、ヤマト政権の成立までの過程を理解させる。 ・東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭などに着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立背景及び中世社会の萌芽について考察させる。	・原始社会について理解できている。 ・東アジア諸国のとのかかわりについて理解できている。 ・古代国家の推移、中世社会の萌芽、古代の文化の特色とその成立の背景について理解できている。
2	中世 【中世社会の成立】 【武家社会の成長】 近世 【幕藩体制の確立】 【幕藩体制の展開】 【幕藩体制の動揺】 12月から 入試問題演習 共通テスト演習	・武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立背景について考察させる。 ・日本の諸地域の動向、東アジア世界との関係、産業経済の発達、庶民文化の萌芽に着目して中世社会の多様な展開について考察させる。 ・戦国時代から近世への移行、幕藩体制の確立・展開・動揺について、複数の視点から考察させる。	・中世国家の形成過程や社会の仕組み、中世社会の多様な展開、中世の文化の特色とその成立の背景について理解できている。 ・日本の諸地域の動向、東アジア世界との関係、産業経済の発達、庶民文化等、中世社会の多様性を理解できている。 ・幕藩体制の特性について理解し、近代国家成立への背景が理解できている。
3	入試問題演習 私大入試問題演習 国公立大入試問題演習	・入試問題の演習を通して、日本史B全範囲の学習事項の定着をはかる。	日本史Bの全範囲の学習事項について、共通テストの出題レベルで7割以上の得点ができる。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

地理歴史 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
X地理B	地理B	3	A B	4	必修選択	140 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	吉田 宣浩
授業形態	講義、演習、映像など
教科書	新詳地理B, 帝国書院 ・ 新コンパクト地図帳 改訂版, 二宮書店
使用教材等	新編地理資料2019, とうほう 2021データブック, 二宮書店 2021地理要点ノート, 啓隆社

科目の目標・内容等

学習目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会を主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
学習における留意点	講義に積極的に参加すること。自ら進んで地図や資料集、関連する本を読むこと。
予習・復習	短時間でよいが復習すると良い。地図も手元においてよく見ること。
評価方法	定期考査・ノート提出・プリント提出・平常点(授業態度等)・小テスト 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	様々な地図と地理的技能	地球儀や地図から捉える世界、結び付く現代世界地図で読む解く。大縮尺の地図について学ぶ。自然環境と防災、地理的な諸課題と地域調査を学習する。	地形図の読図、主題図の作成ができるか。日本の自然災害の特徴を理解できているか。ハザードマップを活用できるか。
2	現代世界の系統地理的考察	世界的視野から見た自然環境と文化諸地域の生活・文化と環境などについて詳しく学習する。	1学年の地理Bと共通する部分が多いので、きちんと基礎的事項を自分のものになっているかどうか。
3	現代世界の地誌的考察	現代世界を、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニアなどの各地域ごとに考察する。	東アジア・東南アジア・南アジア・アフリカ中南部・ヨーロッパ及びロシア・北アメリカ及び中南アメリカ・オセアニアなど各地域の生活・文化と環境について把握できているか。世界地図を活用できるか。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度
教科名等

地理歴史 科

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
地理B	地理B	3	A B C D E F	2	自由選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	吉田 宣浩
授業形態	講義
教科書	新詳地理B, 帝国書院 ・ 新コンパクト地図帳 改訂版, 二宮書店
使用教材等	新編地理資料2019, とうほう 2021データブック, 二宮書店 2021地理要点ノート, 啓隆社

科目の目標・内容等

学習目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会を主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
学習における留意点	講義に積極的に参加すること。自ら進んで地図や資料集、関連する本を読むこと。
予習・復習	短時間でよいが復習すると良い。地図も手元においてよく見ること。
評価方法	定期考査・ノート提出・プリント提出・平常点(授業態度等)・小テスト 等

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	様々な地図と地理的技能	地球儀や地図から捉える世界、結び付く現代世界地図で読み解く。大縮尺の地図について学ぶ。自然環境と防災、地理的な諸課題と地域調査を学習する。	地形図の読図、主題図の作成ができるか。日本の自然災害の特徴を理解できているか。ハザードマップを活用できるか。
2	現代世界の系統地理的考察	世界的視野から見た自然環境と文化諸地域の生活・文化と環境などについて詳しく学習する。	1学年の地理Bと共通する部分が多いので、きちんと基礎的事項を自分のものになっているかどうか。
3	現代世界の地誌的考察	現代世界を、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニアなどの各地域ごとに考察する。	東アジア・東南アジア・南アジア・アフリカ中南部・ヨーロッパ及びロシア・北アメリカ及び中南アメリカ・オセアニアなど各地域の生活・文化と環境について把握できているか。世界地図を活用できるか。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。